

# 鬼北句会

草取て庭の広さを取りもどし  
 法螺貝を白衣の背に山開き  
 手をそれし螢弧を画き闇に消ゆ  
 山肌に彩り添えて竹の秋  
 牛耳に番号札や牧若葉  
 夏場所や異国力士の花盛り  
 更衣美容院へも行きし妻  
 せせらぎの間に寄り添ふ恋螢  
 ほうたるを籠に収めば家族めき  
 黒潮の岬の鼻や岩燕  
 涼風に疲れ癒さる野良仕事  
 一山を萌黄に包む椎の花  
 螢火で友の笑顔が浮かびけり  
 一張羅百まで着よう更衣  
 牡丹散つてさ庭の景の空ろなり

毛利 知子  
 善家 信景  
 善家 三代  
 善家 章  
 上甲 正志  
 上甲 武英  
 松本 久江  
 今西 英子  
 二宮千代子  
 二宮 友子  
 松岡 寛孝  
 芝 都留  
 芝 光恭  
 白敷フサ子  
 上甲 斗志

# 広見短歌会

満開の桜に酔ひし日も過ぎて今盛りなり藤の花房  
 すみ焼の掘立小屋に人気なしき鳩鳴きてとき告ぐる如  
 事もなげに難病と聞きしその日より夫の病に触れず過ぎ来し  
 池に浮くつつじの花びらさながらに着物の模様となりて漂う  
 風に舞ふ桜吹雪を窓越に昼餉楽しむ笑顔の老ら  
 そよ風で桜は池にまい落ちて鯉はえさかとよろこび回る  
 舗装なき道を三人日吉迄自転車こぎて半世紀前  
 土佐の人虎杖とりに野に山にかついだ袋が見えかくれする  
 山百合の咲しと笑顔を見せた日の夫しのびつつひとり花待つ  
 病窓に寄りて柳の芽吹みる夫子こいしい夕暮の空  
 亡き母はこぶしの花が好きでした淡いピンクも淋しげに咲く  
 奈良川の堤の桜七分咲きデイサーピスの車より見る  
 さわさわと青田畔ゆくふるさとの風にしたがふわれの白髪

蛭谷 寿子  
 須藤ヒサエ  
 渡辺キヨ子  
 佐々木登美子  
 松崎 静香  
 伊手リツエ  
 松下 啓脩  
 兵田トミ子  
 渡辺八千代  
 二宮 安惠  
 橋本 加代  
 山本マツエ  
 武田 幸子

## 大きくなったら

## 日吉中学校

私が一番就職したい職業。それは、お菓子を作ることだ。お菓子は、お友達と分け合えるし、お母さんにも喜んで食べてくれる。お菓子作りは、お友達と一緒にお菓子を作ることが、お友達と仲良くできるし、お母さんにも喜んで食べてくれる。お菓子作りは、お友達と一緒にお菓子を作ることが、お友達と仲良くできるし、お母さんにも喜んで食べてくれる。



日吉中 3年 伊野美聖

私が将来の夢は、看護士になることだ。看護士は、お友達やお母さんを守ることができるし、お友達やお母さんに優しく接することができる。看護士は、お友達やお母さんを守ることができるし、お友達やお母さんに優しく接することができる。



日吉中 3年 井上美穂